

グループ外企業との連携の推進状況と 今後の戦略について

日 本 郵 政 株 式 会 社
2 0 2 3 年 1 月 2 0 日

index

1	楽天グループとの協業取組状況（要旨）	1
2	楽天グループとの資本・業務提携の経緯	2
3	楽天グループとの主な協業成果	3-6
4	楽天グループとの協業の進捗状況(一覧)	7

1 楽天グループとの協業取組状況（要旨）

要旨

- 2021年3月12日、日本郵政・日本郵便と楽天グループとは、物流、モバイル、DX等様々な領域での業務提携に合意。両社グループ間の関係を強化するため、同**3月29日、日本郵政が楽天に約1,500億円を出資**
- 以降、両社グループのシナジーの最大化に向け、以下の諸施策をはじめとして様々な取組を進めている
 - ①物流 **JP楽天ロジスティクス株式会社の設立(2021年7月)**を通じ、増加する楽天市場の荷物を確実に確保しつつ、物流DXを加速化
 - ②D X 楽天グループより飯田CDOを迎え**株式会社JPデジタルを設立し（2021年7月）**、リアル郵便局ネットワークとデジタルを融合した「**みらいの郵便局**」に向けた**業務変革を実施**。また、新たな郵便局ファンの獲得を目指して**切手原画等のNFTアートを販売（2022年10月～）**
 - ③モバイル 郵便局での**楽天モバイルの受付を開始し（2021年6月～）**、**2022年12月時点で約300の郵便局で取扱い中**
 - ※ その他、金融や小売など様々な分野において、提携による企業価値の向上策を検討・実施（P7参照）

3 楽天グループとの主な協業成果①（物流）

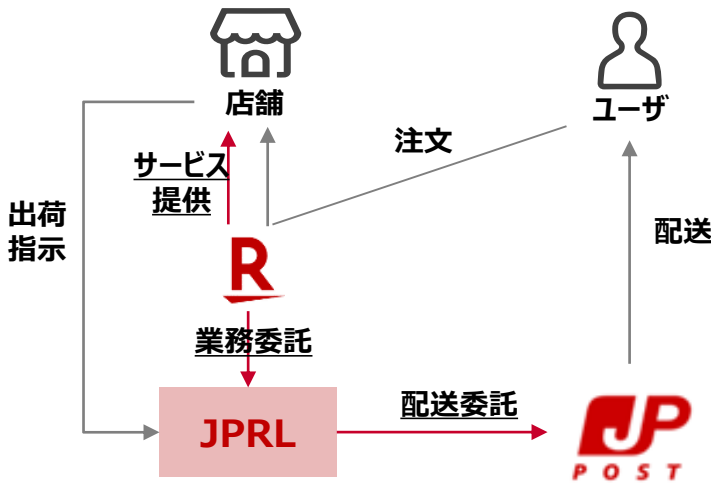
JP楽天ロジスティクス株式会社による協業とその成果

- 2021年7月に、日本郵便と楽天グループで「JP楽天ロジスティクス」というジョイント・ベンチャーを設立（注：出資比率 日本郵便50.1%、楽天49.9%）し、当社グループの全国津々浦々の配送網と、楽天の先進的なDXを融合することを目指し、物流拠点や、配送システム及び受取サービスの共同構築に取り組んでいる。
- 楽天市場の成長を確実に取り込み、ゆうパックにおける引受の確保を目指している。
- 2021年11月には最新鋭の倉庫オペレーションを反映した物流センターを神奈川県にオープン（※1）したほか、楽天内の複数店舗で購入した商品をまとめて日時指定できる「おまとめアプリ」を共同で提供しており、さらに、先進的なドローン配送の実証実験（※2）も行っている。

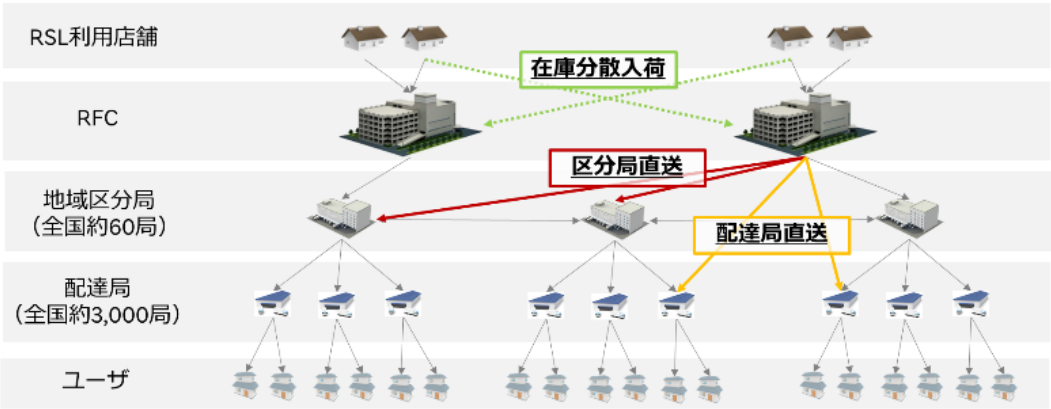
※1 神奈川県（大和市）の物流センター
これまで楽天が培ってきた商品の注文からお届け迄を一貫管理する「ワンデリバリー」等の倉庫内オペレーションのノウハウを生かした更なる効率化・省人化の実現を目指す。

※2 先進的な配送の実証実験
・2021年9月に長野県白馬村でドローン配送の実証実験を開始
・2022年1月には超高層マンションへのドローンでのオンデマンド配送実験に国内で初めて成功

JV設立後のビジネスモデル



23年秋までに目指す両社のネットワーク構造

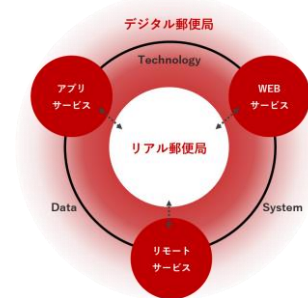


3 楽天グループとの主な協業成果②-1 (DX)

株式会社JPデジタルによるJPグループのDXの進展

- 日本郵政グループではグループ一体でのDX推進によって、リアル郵便局ネットワークとデジタルを融合し(「**みらいの郵便局**」)、幅広い世代・地域のお客さまへの**利便性の向上**を目指しているところ
- みらいの郵便局においては、身近な相談、魅力的な商品・サービスの提供、郵便・荷物の発送等に係る利便性向上、金融手続きの利便性向上などを実現していく
- それを踏まえ、楽天グループから飯田CDO等の人的支援を得て、2021年7月に当初従業員13名で**株式会社JPデジタル**を設立
- また、楽天グループの得意分野(会員基盤、アプリなど)の技術・ノウハウ等をJPグループの業務に活かしていくことを検討

みらいの郵便局



＜みらいの郵便局が提供する体験価値＞

“相談”をもっと身近に

- ①「身近に・より早く」お金に関する診断・相談・申込みができる
- ②「身近に」お金に関する幅広い・より専門的な相談ができる
- ③「身近に」金融以外の、健康や地域等の人生や生活に関わる各種相談も専門家に気軽に相談できる

“贈る・買う”をもっと楽しく

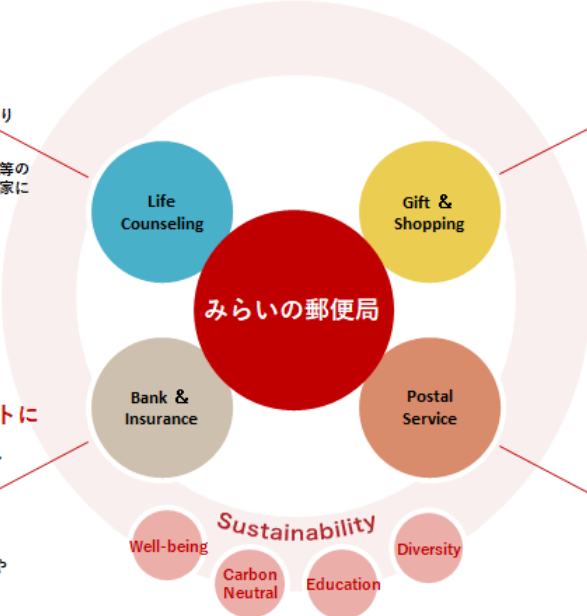
- ①全国の郵便局ネットワークの力でセレクトした日本中の本当にいいものが見える
- ②簡単・スピーディーに買うことができる
- ③郵便局やECサイトに行くと自分の興味のある商品やサービスに出会える

“金融の手続き”をスマートに

- ①自分の都合に合わせて「いつでも・どこでも」金融の手続きができる
- ②窓口での金融の手続きが「わかりやすい・簡単(すぐ)」できる
- ③郵便局に行けば、幅広い金融機関やその他の手続きも一緒にできる

“送る、受け取る”をクイックに

- ①自分の都合に合わせて「いつでも・どこでも」郵便・荷物の発送ができる
- ②窓口での郵便・荷物の発送手続きが「わかりやすい・簡単(すぐ)」できる
- ③好きな時間にストレスなく荷物を受け取ることが出来る



3 楽天グループとの主な協業成果②-2 (DX)

デジタル領域の先進的取組み (切手原画等のNFTアート販売)

- 現在、多くの企業がNFT (※) の活用を検討・開始。日本郵便としても、日ごろ郵便局の利用機会が少ないと考えられる若者層を主なターゲットに、NFTを活用した新たなユーザー獲得を模索しているところ

※NFT(Non-Fungible Token)とは、デジタルデータに取引履歴を含む偽造不可な所有証明書を付与したもの。容易にコピー・改ざんができるため資産価値を持ち難かった従来のデジタルデータと異なり、現物の宝石や絵画等と同様に希少性・固有性を持たせることが可能なツールとして使用が拡大している

- その一環として、日本郵便において「Rakuten NFT」マーケットを通じ、切手原画のNFTアートを2022年10月3日に販売開始、即日完売 (総数200パック)

- 現在販売中の切手のデジタルデータを、絵柄に合わせ「動物シリーズ」「花シリーズ」「景色シリーズ」の3種類リリース

※切手としての悪用を防ぐため、デザイン上所要の対策 (①「日本郵便」「額面」表示はしない ② 券面に「NFT ART」と明示) を実施済

切手原画等のNFTアート3種類



参考例：スイスポストのNFT切手

実物の切手に付与されているQRコードを読み込むと、どれか1種類のNFT切手を入手可能

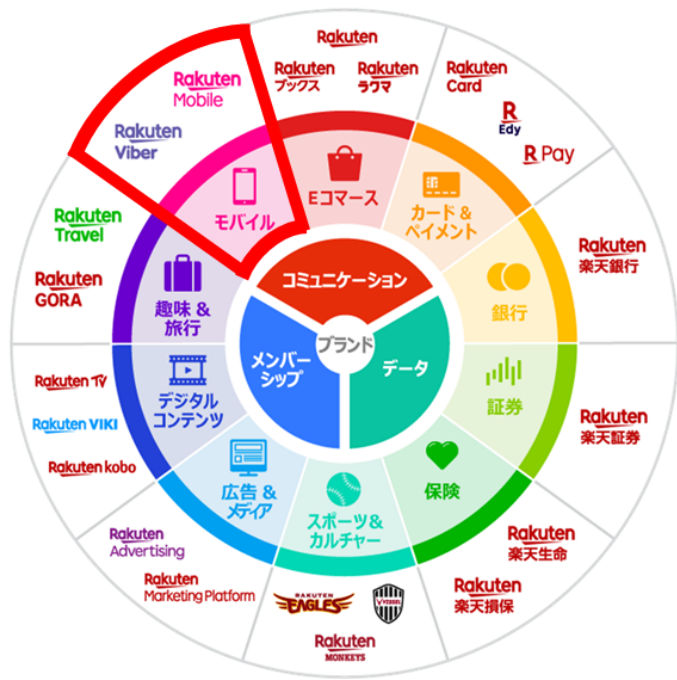


3 楽天グループとの主な協業成果③（モバイル）

郵便局での楽天モバイル受付等による J P グループの協力

- 楽天は、生活にまつわるすべてのサービスを自社内および自社 ID で完結させる「**楽天エコシステム（経済圏）**」の拡大・充実を目指しているところ。
- かかる状況下、日本郵便では2021年6月から**郵便局の空きスペースに楽天モバイルの受付カウンターを設置して販売に協力するとともに、賃料収入を確保**。2022年12月末時点で約300の郵便局で取扱い
- 今後、郵便局ネットワークをより活かすことのできる販売形態への移行も検討

楽天エコシステムのイメージ



郵便局楽天モバイル店舗



ミニショップ(対面接客型)

協業の進捗状況（一覧）

- 物流でのJV設立（JP楽天ロジスティクス株式会社）をはじめ、楽天グループの強みであるデジタル、金融、小売、さらに地方創生へと領域を広げ、協業に取り組んでいるところ（詳細は下表のとおり）
- これらの取組も踏まえ、今後も物流に主軸をおきつつ、切れ目なく新しい分野における協業の可能性を検討していく

カテゴリ	主な施策・取組	シナジー
物流	✓ JP楽天ロジスティクス株式会社の設立(2021年7月)を通じて、増加する楽天市場の荷物を確実に確保しつつ、物流DXを加速化	共同の物流拠点構築による 配送リードタイムの短縮と物流コストの効率化 (物流DXの促進)
DX	✓ 飯田CDOを楽天グループより迎え、株式会社JPデジタルを設立(2021年7月)し、「 みらいの郵便局 」に向けた業務変革を実施	日本郵政グループのDX推進による 利便性の向上
	✓ 切手原画等の NFTアート販売 (2022年10月～)	
金融	✓ 楽天カード(ゆうちょ銀行デザイン)の取扱開始 (2021年12月～) ✓ 楽天ペット保険の案内(試行)(2022年7月～9月)	キャッシュレスペイメント分野や保険商品・サービスに関する協業による お客さま満足度の向上
小売	✓ 郵便局物販サービスの EC店舗を楽天市場に出店 (2022年3月～) ✓ 楽天市場商品の 郵便局におけるカタログ販売 (2022年4～6月)	お互いの得意分野である ECとリアル店舗による新たな販売機会創出
mobile	✓ 郵便局での楽天モバイルの受付 (2021年6月～)	郵便局のリアル店舗と楽天のデジタルの 相互補完 による 楽天エコシステムの拡大・充実
その他	✓ 北海道との3者連携 (2022年3月～) ✓ 「楽天市場」×「JPショールーム」(2022年2月) ✓ 東北楽天ゴールデンイーグルスとのコラボ(2021年8月)	様々な分野での提携による 企業価値の向上や地域社会への貢献